

宮交ホールディングス株式会社
代表取締役社長 菊池 克頼

平成 28 年度 上半期 (4 月～9 月累計)
業績に関するお知らせ【連結】

表記の件、平成 28 年度上半期 (4 月から 9 月まで) 連結ベースでの業績がまとまりましたので、下記のとおりお知らせ申し上げます。

記

1. 平成 28 年度 上半期業績の状況

(1) 【連結】グループ業績

当社グループは、変化する市場環境や競争環境にスピード感をもって対応するため、経営基盤の強化を着実に実施しながら、将来の成長に向けた新たなステージへと移行してまいりました。また、本年度は、グループ創立 90 周年を迎えるなか、「経営を支える土台作り」、「成長マーケットへのアプローチ」、「安心と信頼の確立」を基本戦略とした「平成 28 年度～平成 30 年度 3 ヶ年経営計画」を策定し、次の 100 周年も視野に入れながら様々な施策に取り組んでおります。

今期は、そのスタートにあたり 4 月に熊本地震が発生し、その後も多くの余震が続くなか観光部門を中心に大変厳しい出だしとなりました。

そのような中、将来の成長に向けた戦略的投資については計画通りに実施し、(株)宮崎観光ホテル、青島リゾート(株)の両ホテル施設においては、客室改装等を行い、さらなる集客・増収に取り組みました。宮交ショップアンドレストラン(株)では、「ホテル高千穂」「白鳥温泉上湯下湯」を新規指定管理者として受託したほか、鶴戸神宮「三ツ和荘」についてはテナント運営を開始致しました。宮崎ビルサービス(株)においても、「県立美術館」「県健康プラザ」の両施設で受託運営を開始しております。

また、今年度上半期におけるその他の取り組みとして、バス事業においては、昨年度より開始した中山間地域の路線バス維持への取り組みである「客貨混載事業」を 6 月より延岡～高千穂線・日向～諸塚線の 2 路線を拡充し、お客様の利便性向上と安定的な収益確保に努めました。安全面においては、法令施行に先駆け、大型・小型貸切バス全車へドライブレコーダーを設置し貸切バスの安全強化を図りました。さらに、CS 経営を確立するための礎として、課題の抽出と改善に繋げるべくグループ統一の従業員満足度調査を実施しました。

このような取り組みに加え、熊本地震による損失対応への自助努力として、主要エージェントへの誘致キャラバンセールスを迅速に取り組み、7 月以降の旅行・ホテル事業を中心とした行政による復興支援策も追い風とし、最大限の集客に努めました。その結果、第 2 四半期の営業収入は前年を超える水準にまで回復しましたが、今期の上半期の業績としては、第 1 四半期の落込みを補うまでには至らず、連結の営業収入は、87 億 27 百万円 (前年同期比 97.4%) と減収になり、営業利益は 3 億 7 百万円 (同 49.1%)、親会社株主に帰属する中間純利益は 1 億 76 百万円 (同 32.8%) となりました。

(単位：百万円)

【連結グループ業績】	平成28年度 上半期	平成27年度 上半期	前年比較	前年比 (%)
営業収入	8,727	8,960	△233	97.4
営業経費	8,419	8,334	85	101.0
営業損益	307	625	△318	49.1
経常損益	223	532	△309	41.9
親会社株主に帰属する中間純利益	176	538	△361	32.8
償却前営業利益	766	1,002	△236	76.4

※連結子会社(6社)・・・宮崎交通株、宮交タクシー株、(株)宮崎観光ホテル、青島リゾート株、宮崎ビルサービス株、宮交ショップアンドレストラン株

※持分法適用会社(2社)・・・宮崎空港ビル株、宮崎パブリックビル株

※記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

(2) 事業部門別業績

(単位：百万円)

事業別		平成28年度 上半期 実績			償却前営業利益 比較	
		営業収入	営業損益	償却前 営業利益	前年比較	前年比 (%)
宮 崎 交 通 株	バス事業	2,585	50	257	△75	77.2
	旅行事業	285	△17	△14	△48	-
	航空事業	440	125	136	2	101.6
	こどものくに事業	74	△38	△27	△6	-
	保険事業	74	28	28	△1	93.6
	熱源センター事業	187	38	41	13	147.6
	不動産事業	157	78	99	7	108.1
	本社	24	0	6	0	94.4
小計	3,829	276	527	△110	82.7	
宮交タクシー株		961	53	62	6	111.0
(株)宮崎観光ホテル		1,653	25	117	△6	94.7
青島リゾート株		747	2	75	△16	81.9
宮交ショップアンドレストラン株		1,449	△77	△45	△85	-
宮崎ビルサービス株		580	3	8	△6	57.2
宮交ホールディングス株		170	1	2	0	98.3
連結消去		△665	20	18	△17	-
連結売上高合計		8,727	307	766	△236	76.4

※上記数値は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

① 宮崎交通㈱ バス事業

一般路線では、乗車人員が4,789千人（同96.8%）、営業収入は18億07百万円（同99.2%）、営業損失は29百万円となりました。

県内全域にて、4月1日より「宮交バスカ」と「nimoca」併用から「nimoca」単独での本格運用を開始しました。宮崎市内線におきまして、海洋高校線を小戸町まで新設延伸を行い、輸送力の強化を図った一方、少子高齢化や過疎化等により、中山間地域を中心に利用者の減少が続いています。運転士の高齢化対策として、高卒者バス運転士3名の採用を実施、経費面では燃料単価が安価で推移しているが、円安や社会情勢などの影響を受けやすく、今後もアイドリングストップなどの省エネ運転を継続実施しながら更なる経費削減に取り組んでおります。

高速バスでは、乗車人員が151千人（同84.4%）、営業収入は4億63百万円（同83.7%）、営業利益は38百万円（同41.8%）となりました。

4月に発生しました熊本地震により、熊本市内の被害と合わせ、高速道路の損壊もあり、各高速バス路線の運行中止、迂回運行等により、乗車人員は大きく減少しました。その中で、宮崎～大分線では、宮交運行のダイヤを別府までの延伸により、一定程度の需要を取り込むことができました。

貸切バスでは、営業収入は2億73百万円（同87.2%）、営業利益は33百万円（同61.5%）となりました。関東、関西を中心とした営業展開を図りつつ、政府による復興割引もあり、少しずつ回復傾向にあります。熊本地震でのキャンセル、受注減による収入減を補うには至りませんでした。

広告宣伝では、営業収入は41百万円（同111.5%）、営業利益は8百万円（同132.1%）となりました。カラーバスを主にバス広告全般にわたり行政、公共機関、県内企業への営業を展開を行い、昨年を上回ることができました。

バス事業全体では、営業収入25億85百万円（同94.9%）、営業利益は50百万円（同25.5%）と減収減益となりました。

下期の取り組みとしまして、一般路線では、利用促進やモビリティマネジメント（公共交通機関の利用促進に向けた各種施策）を確実に推進しながら、イベント需要も積極的に取り込んでまいります。高速バスでは、熊本線での運賃施策と共に大分線の停留所追加施策により、更なる収益拡大を図ってまいります。貸切バスではきめ細かい営業活動と運賃制度による単価上昇、クルーズ船への対応により増収を図ってまいります。

② 宮崎交通㈱ 旅行事業

4月に発生した「熊本地震」の影響により国内の主催旅行、手配旅行ともに九州自動車道を始めとする交通機関の麻痺、及び旅行マインドの低下により中止や延期が相次ぎ、厳しい状況で推移致しました。また、7月より国の交付金である「九州ふっこう割」を利用した商品を発売しましたが、序盤戦の減少分を補うには至らず計画から大きく乖離する結果となりました。

そのような中、宮交グループ90周年記念特別企画として九州各地の世界遺産や名所を巡るバスツアー「九州一周七都物語7日間」がご好評を頂くなど、熊本地震の被災地および宮崎県内に明るい話題を提供することが出来ました。

一方、海外旅行については、欧州方面におけるテロ等の安全面を考慮し、宮崎発着の国際定期便が就航するアジア近郊の個人型・団体型の商品のバリエーションを増やし販売しましたが、計画を下回る結果となりました。

旅行事業では、営業収入は2億85万円（前年同期比86.0%）、営業損失は17百万円と減収減益となりました。

下期の取り組みとしましては、「九州ふっこう割」を利用した商品(日帰り・宿泊バスツアー全18コース)及び国内チャーター商品の完売、宮崎から利便性のある羽田乗り継ぎの国際線利用の海外旅行商品の販売により増収を図ってまいります。また、団体営業についてはグループ内外に向けた積極的なコミュニケーションを図ることにより情報共有を強化し、常にアンテナを高くした営業活動に取り組んでまいります。

③ 宮崎交通(株) 航空事業

宮崎空港の乗降客数は、国内線 1,430 千人(同 103.0%) 国際線 40 千人(同 87.5%) で推移いたしました。国内線は、昨年 8 月よりピーチアビエーションの就航もあり乗降客数は増加いたしました。国際線は、熊本地震の影響を受け、特に第 1 四半期の乗降客数の減(同 81.1%)により減少いたしました。定時運航・接客対応など品質の維持向上などに努め、航空事業では、営業収入は 4 億 40 百万円(同 101.0%)、営業利益は 1 億 25 百万円(同 102.4%)と増収増益となりました。下期におきましても、事業部全体で業務品質の向上と増収に取り組んでまいります。

④ 宮崎交通(株) こどものくに事業

春休みから「フラワーフェスタ 2016」を開催、イベント施策「こどものくにの夏」を実施し集客に努めました、こどものくにの入場者総数は 77 千人(同 84.4%)で推移いたしました。また、「宮崎市青島パークゴルフ場」は新規団体の取り込みと回数券増販に努めましたが、来場者は 12 千人(同 92.1%)となりました。こどものくに全体での営業収入は 74 百万円(同 77.6%)、営業損失は 38 百万円となりました。

下期の取り組みとしましては、こどものくにの秋を開催、「ハロウィンガーデン」や「ローズガーデン」で、集客に努め増収を図ってまいります。また、パークゴルフでは、宮崎市パークゴルフ協会と共同で大会のスポンサーを誘致することで企業冠のついた大会開催や「ANA ホリデイ・イン リゾート 宮崎」との連携を強化し入場者数のアップに繋げてまいります。

⑤ 宮崎交通(株) 保険事業

生命保険では、法人向けの事業保障保険販売に努め好調に推移しましたが、医療・がん保険では、契約者の高齢化に伴う保険の失効や解約の影響で手数料が減少し厳しい状況で推移しました。一方、損害保険では企業向けの施設賠償保険や火災保険の販売、更に宮交グループ従業員の自動車保険販売を強化した結果、好調に推移しました。

保険事業では、営業収入は 74 百万円(同 96.2%)、営業利益は 28 百万円(同 93.4%)減収減益となりました。

下期の取り組みとしまして、既存集団企業との接点強化、テレアポによる既契約者フォローによる見直し契約をはじめ、職域顧客への世帯内白地開拓を積極的に推進してまいります。また、顧客管理システムを活用した顧客との対応履歴の共有化を図り長期的なお客様フォローとサービス向上に取り組んでまいります。

⑥ 宮崎交通(株) 熱源センター事業

熱供給事業においては、供給先の省エネ対策などにより、熱供給量の減少が見込まれましたが、期間を通して気温上昇傾向となり全体では熱供給量は増加となりました。また、入札物件は前期に引き続き受託継続することが出来ました。グループ修繕収入においては、設備改修提案を積極的に実施し受注に努めました。

営業収入は 1 億 87 百万円(同 120.2%)、営業利益 38 百万円(同 154.8%)と増収増益となりました。

下期の取り組みとしましては、供給先の省エネ対策による、熱供給量の減少が見込まれるなか、コスト削減に努め、さらに増収に取り組んでまいります。

⑦ 宮崎交通㈱ 不動産事業推進事業

延岡駅前再開発事業への取り組み、合わせて延岡地区のバス事業の拠点集約に取り組んでおります。また、所有する不動産へのテナント誘致や施設の維持管理を実施すると共に、土地取引の仲介業務により手数料を計上いたしました。営業収入は1億57百万円（同110.3%）、営業利益は78百万円（同101.6%）と増収増益となりました。

下期の取り組みとしましては、引き続き延岡地区の拠点集約に取り組む他、所有する不動産の再開発、更には賃貸物件の価値向上や維持管理を継続的に行い、収益拡大に努めてまいります。

⑧ 宮交タクシー㈱

4月に発生した熊本地震の影響による観光客の大幅な減少や各種イベント中止によるキャンセルなどタクシー、中・小型貸切バスともに大変厳しい環境のなか、支援学校のスクールバス・自治体のコミュニティバスの受託など請負業務による収入確保や復興支援ボランティアの送迎、保険会社による被害調査など熊本地震に関連したバス・タクシー輸送への積極的な受注対応、また各営業所での繁忙時に合わせた配車体制により収入確保に努めてまいりました。結果的には減収分を補うには至りませんでした。昨年来の燃料価格の下落や諸経費の削減効果により、営業収入は9億61百万円（同98.0%）、営業利益は53百万円（同104.6%）と減収増益となりました。

下期の取り組みとしましては、旅行者及び宿泊施設への営業強化や企業等へのタクシーチケット営業強化と各種イベント（ゴルフマンス・プロ野球キャンプなど）や繁忙期における集中的な配車・勤務体制を実施し収入確保に努めてまいります。

⑨ ㈱宮崎観光ホテル

4月に発生した熊本地震により、第一四半期は宿泊集客が大幅に減少し、宿泊、レストラン部門が大幅な減収となりましたが、第二四半期に入ると、行政の復興支援策等により、宿泊集客は回復の傾向を見せました。また、地元集客の強化として、主催イベントの実施や新しい婚礼プランの投入等を行なって参りました。今期投資計画の「東館客室4階16部屋の改装」、「東館3階バンケットホール改装」は計画通り上半期で完了いたしました。上半期の営業収入は16億53百万円（同96.9%）、営業利益は25百万円（同68.1%）の減収減益となりました。

下期の取り組みとしましては、宿泊部門では復興支援策の終了を見据え、Web集客の強化、東九州道開通による北部九州への営業推進、募集团体の獲得等、国内観光客の集客を強化していきます。バンケット、婚礼部門では、改装したバンケットホールのセールスに注力し、各種プランの販売促進や婚礼の獲得を目指します。エムズホテルクレール宮崎では、イールドコントロールを強化し、収入の拡大を図ります。

⑩ 青島リゾート㈱（ANA ホリデイ・イン リゾート 宮崎）

宿泊部門では、熊本地震以降、国内団体及び香港・台湾訪日外国人が激減、個人チャネルはふっこう割などの政策によりネットエージェントを中心に増加しました。レストラン部門では、新メニュー（龍王・日向雫・リップル）の設定や龍王ランチバイキング、リップルデザートブッフェの開催の他、ラグーンナイト（イルミネーション）の開催等ホテルの魅力発信に努めました。婚礼部門では、新体制のもとスタッフのレベルアップを行い青島ブランドの向上に努めました。アクティビティセンターは、教育旅行を中心にキャンセルが相次ぎ減少となりました。上半期の営業収入は7億47百万円（同95.9%）、

営業利益は2百万円となりました。

下期の取り組みとしましては、伊勢海老プランや各種宿泊プランと台湾・香港を中心としたインバウンド販売、こどものくに・青島地区との連携強化、MICEの販売促進に努めて参ります。

⑪ 宮交ショップアンドレストラン(株)

4月に発生した熊本地震の影響により、甚大な災害に見舞われた阿蘇に近く、阿蘇方面からの観光客が多い高千穂地区におきましては、日帰り観光客の激減に加え、宿泊予約のキャンセルが相次ぎました。このため、主要取引先がある営業部門（お土産品卸）では、4月1日から運営受託をスタートした「国民宿舎ホテル高千穂」において、大きな減収及び減益要因となりました。また、社会情勢等による影響が比較的low、ボラタリティーも低いサービスエリア部門（霧島サービスエリア）においても、地震による九州自動車道の寸断・一時通行止めにより、4～5月の売上累計は前年比65%と大きく影響を受けました。観光施設のツアー団体昼食のキャンセルにおいても、地震発生からGWまでに2,800名のキャンセルがあるなど、4～6月の第一四半期は厳しい環境となりました。しかし、7月から始まった「九州ふっこう割り」等により回復はしてきたものの、3ヶ月の落ち込みをカバーするまでには至りませんでした。その中で、9月より一時閉店し、解体・建替え工事に入った青島神社参道沿いの「青島屋」は、大型クルーズ船の受入れを積極的に行い、インバウンド需要への対応、地震の影響によるコース変更にとともに修学旅行を獲得した結果、4～8月まで前年比106%の増収となりました。また、4月から運営を開始した新規運営受託施設「宮崎県国民宿舎ホテル高千穂」・「えびの市白鳥温泉上湯下湯」の両施設に加え、9月より受託運営を開始した鶴戸神宮参道沿いの民間施設「三ツ和荘」の運営でも増収を図りました。その結果、営業収入は14億49百万円（同100.1%）、営業損失は77百万円となりました。

下期の取り組みとしましては、新規運営受託3施設のプロモーション強化による国内需要の獲得に加え、訪日外国人利用者を獲得するための体制強化を行います。営業部門において量販店向けお歳暮商品のアイテムの拡充、温泉施設において「カラオケ大会」・「演芸ショーなどのイベント」等の集客プログラムに加え、優待日の設定やクーポン等による利用促進を図るとともに、えびの高原スポーツレクリエーション施設での日本最南端屋外スケート場の運営などに積極的に取り組み、収益改善に努めてまいります。

⑫ 宮崎ビルサービス(株)

民間物件の解約・減額等をカバーする為、公共入札物件の新規受注に努めた結果、微増ながら計画は達成できましたが、昨年に対しましては減収となりました。経費については、全般的なコストの圧縮を図り、新規雇用の確保に努めたものの、適正人員を確保できず、派遣や外部委託に頼らざるを得なくなり、営業収入は5億80百万円（同98.6%）営業利益は3百万円（同30.7%）と減収減益となりました。

下期の取り組みとしましては、契約更新となる指定管理物件の再受注と新規物件の獲得に向けた取り組みや不採算物件の整理を行い、収益の確保に取り組めます。また、品質向上のための研修や資格取得の推進を行う一方、併せて人材不足解消の為、ホテルクリーンスタッフの制服刷新などに取り組みながら、人材確保に努めてまいります。

2. 有利子負債の状況

平成28年 4月 1日現在残高	140億65百万円
平成28年 9月30日現在残高	144億74百万円
差 引	4億09百万円の増加

※ 上半期は、借入残高が計画比較で2億円の増加。

3. 下半期における主な事項

下半期は、ホテル宿泊・貸切バス・旅行事業におきまして、復興支援政策「ふっこう割」等の最大活用を目指してまいります。バス事業におきましては、新たな実証実験「バスロケーションシステム」「公共車両優先システム」を実施し、利便性の向上を促進していきます。

また、リコーカップをはじめ、従来からのプロ野球やJリーグのキャンプなど、多くのスポーツイベントが予定されており、ホテルや貸切バスなどグループ内の連携をより強固にして増収増益に取り組んでまいります。

さらに、「青島屋」の建て替えや、ホテル客室及び宮崎観光ホテル西館の改装、延岡事業所の再編等、戦略的投資を行ってまいります。グループ内におきましても従業員満足度調査の結果をふまえての課題抽出と解決への取り組みを行いながら、働きかた改革を推進してまいります。

4. 通期の見通し

下半期におきましても、景気の先行き不透明感が拭えない厳しい状況になっておりますが、3ヶ年経営計画と各種施策を確実に実行し、目標達成に向け、全役職員一丸となって取り組んでまいります。

平成28年度の通期の見込みは、以下のとおりでございます。

(単位：百万円)

【連結グループ業績見込】	平成28年度 通期見込み	平成27年度 実績	前期比較	前期比 (%)
営業収入	18,138	18,355	△216	98.8
営業経費	17,263	17,027	236	101.4
営業損益	874	1,327	△453	65.9
経常損益	627	1,087	△459	57.7
親会社株主に帰属する当期純利益	481	941	△460	51.1
償却前営業利益	1,870	2,183	△313	85.7

※平成28年度 通期見込みは、9月までの実績値+見込値です。

※計数については、グループ会社6社ならびに持分法適用会社3社の連結値です。

以 上